

乳幼児の遊びの発達に関する調査研究(2)

—おもちゃについて—

柿沼 儀子
(日本女子大学)○芳野 紀子
(日本女子大学)

I. 目的

乳幼児期の遊びの発達の中で、おもちゃやおもちゃ以外の物が、どのように好まれ、用いられているかを明らかにする。

II. 方法

報告(1)と同じ調査結果から、おもちゃに関する質問項目問4～8を取り出し、性差、年齢差について、分析する。なお質問項目は、以下のようである。

問4. 今一番よく使っているおもちゃは何ですか。

1. _____ 2. _____ 3. _____

問5. 近頃欲しがっているおもちゃがありますか。

1. ある 2. ない

問6. ある場合、それはどんなおもちゃですか。

1. _____ 2. _____ 3. _____

問7. おもちゃ以外で遊びによく使う道具や物がありますか。

1. ある 2. ない

問8. ある場合、それはどんな物ですか。

1. _____ 2. _____ 3. _____

III. 結果

1. おもちゃのカテゴリー

おもちゃの調査をまとめる上で、遊びと同様に、おもちゃのカテゴリーを作成した(表1)。

2. よく使うおもちゃ

問4に対する回答の全体の傾向を、大カテゴリーで示したのが図1である。一番出現率の高いのが、人形類、次いで構成玩具、操作玩具、ゲーム類、運動具、楽器、学習玩具、収集物の順である。

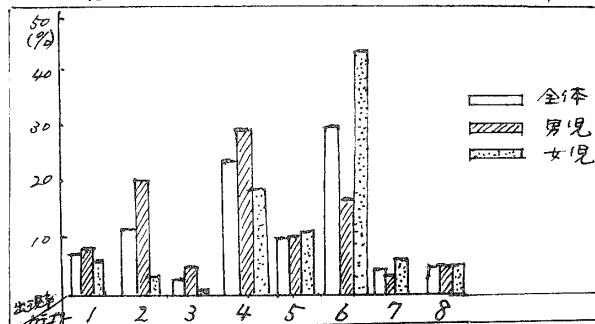
性別にみると、男子では、一番多いのが、構成玩具、次いで操作玩具、人形類が多く、ゲーム類、運動具、

表1 おもちゃのカテゴリー

大カテゴリー	中カテゴリー
1. 運動具	固定遊具、ボール、車類、バドミントン類、スケート類
2. 操作玩具	電車、ミカー(自動車)、電話
3. 収集物	自然物、生活物、趣味用品、キャラクター製品、消磁
4. 構成玩具	積木ブロック、粘土、折紙、プラモデル、ぬい絵
5. ゲーム類	トランプカード類、パズル、ゲーム、お宝探し、TVゲーム
6. 人形類	人形、きせかえ、キャラクター人形、ぬいぐるみ、人形人形
7. 学習玩具	絵本、せんせい
8. 楽器類	鍵盤楽器、打楽器、吹奏楽器
9. その他	〃

収集物、楽器類、学習玩具は、10%以下である。一方、女子は、人形類が一番多く、構成玩具、ゲーム類、運動具、学習玩具、楽器類、操作玩具、収集物の順である。

図1 よく使うおもちゃの大カテゴリー別出現率



これらの中カテゴリーでまとめる(図2)。男子では、積木ブロック、キャラクター人形、自動車が大きい。女子は、人形、積木ブロック、ぬいぐるみ、ままごとが5%以上を占める。

中カテゴリー	10	20
積木ブロック	10	20
人形	10	20
キャラクター人形	10	20
自動車	10	20
ぬいぐるみ	10	20
ままごと	10	20

年齢別では、図3より、年齢によって使われるおもちゃが異なってくるのがみられる。

図2 よく使うおもちゃ(上位)(中カテゴリーによる)

遊びと同様に、変化のタイプを(a)～(e)に分類してみると、(a)に属するのは、ゲーム類、収集物、(b)に属するのは、操作玩具、運動具、(c)には、人形類、(e)には、構成玩具、学習玩具、楽器類となる。1歳児に最もよく使われて

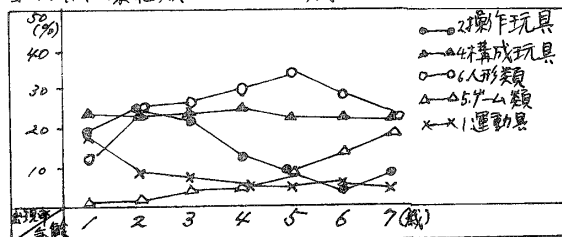
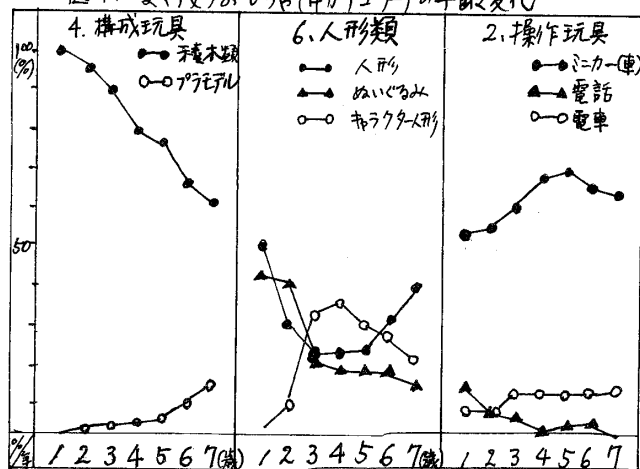


図3 よく使うおもちゃ(大カテゴリー)年齢変化

いるのが、構成玩具、2歳児でよく使われているのが、操作玩具と人形類、構成玩具がほぼ同程度である。3歳児では、2歳児とほぼ同じ傾向を示すが、やや人形類が多くなっている。4歳児では、人形類がさらに多くなり、操作玩具が減少する。5歳児では、人形類が一番多く、他年齢と比較しても最頻の出現率を示す。6歳児では、やはり人形類がトップではあるが、出現率は下降し、7歳児になると、人形類と構成玩具が

図4. よく使うおもちゃ(中カテゴリー)の年齢変化



同率となる。次に、出現率の高い構成玩具と人形類と操作玩具について、中カテゴリーの玩具の使用変化を表わしたのが、図4である。全体的には、構成玩具の使用率は、減少傾向を示しているところであるが、この図から、積木類が減少していることが、その理由として考えられる。プラモデルの方は、わずかにあるが増加を示す。人形類では、人形がU字型カーブを示し(d)タイプである。逆にキャラクター人形は、山型の(c)タイプであり、ぬいぐるみは、(b)タイプで減少傾向が認められる。操作玩具では、ミニカー(車)が、山型の(c)タイプであり、電話は、1歳頃には、使われるが、その後減少を示している。電車は、あまり多くないが、ほぼ同程度の(e)タイプである。

3. おもちゃ以外に遊びに使う物や道具

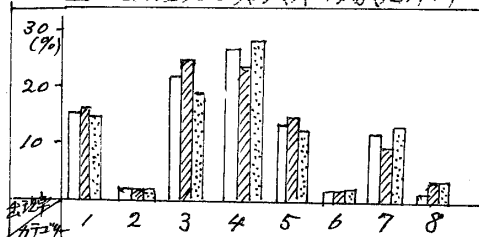
おもちゃのカテゴリーや遊びのカテゴリーと対応を考慮して、おもちゃ以外に遊びに使う物や道具についてのカテゴリーを作成した(表2)。

子どもは、遊びにおもちゃばかりでなく様々な身のまわりの道具や自然物を使うことがみられるが、その割合は、問7の回答から、84%であり、年齢差、男女差はみられない。そこで、問8に得られた回答(8/10)

表2 おもちゃ以外に遊びに使う物のカテゴリー

大カテゴリー	中カテゴリー
1. 運動具	固定遊具、ボール、車輪、パトイオン類、スケート類
2. 自然物	生物、土砂類、水類、石や玉類、虫魚類
3. 材料類	紙類、糸類、箱類、板類、棒類、ピン類
4. 生活用品	布類、掃除道具類、家具類、電話、台所用品、園芸用品、クッション
5. 道具類	工作道具類、ハサミ類、ボウヤス、接着剤類
6. 機械類	テープレコーダ類、マイク類
7. 学習用品	スケッチブック類、筆記用具類、絵本類、黒板、砂箱
8. 楽器類	鍵盤楽器類、打楽器類、吹奏楽器類
9. その他	

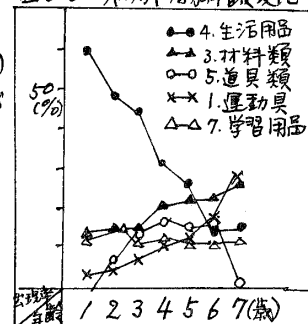
図5 よく使うおもちゃ以外の物(大カテゴリー)



のもとによく使われる物を大カテゴリー別にみると、一番多いのが、生活用品、第2位が、材料類、第3位が、運動具(おもちゃの中も含める者とおもちゃ以外とする者があつた)、第4位が道具類である(図5)。

性別でみると、男子は、材料類と生活用品が、ほぼ同程度の出現率、次いで運動具と道具類がほぼ同様である。女子では、生活用品がトップ、次いで、材料類、運動具と続き、道具類と学習用品がほぼ同程度でその次に出現率が高い。

図6 おもちゃ以外の物年齢変化



年齢別では、図6より、タイプ別に分類すると、(a)が、運動具、材料類、(b)が生活用品、(c)が、道具類、(e)が、学習用品である。特に、生活用品は、1歳頃では、60%を示すが、次第に減少していく。しかし5歳までは、一番よく使われる物である。材料類は、だんだん増加して、6歳で一番多く使われている。7歳では、運動具と材料類がほぼ同程度に一番多い。中カテゴリーでは、生活用品は、台所用品、家具、布類が多く、材料類では、紙類、箱類、道具類では、ハサミ類が非常に多く、接着剤類が、増加する(図は省略)。

4. 欲しいおもちゃ
欲しいおもちゃがある者は、約50%であり、その内訳では、人形類(42%)、操作玩具(28%)である。

5. まとめ

1) おもちゃでは、人形と積木ブロックが、年齢、性別にかかわらずよく使われていることが明らかになった。報告(1)の遊びの結果で「倉作」がトップ、「ごっこ遊び」が3位となっていることと対応するといえよう。男子では、「キャラクター人形」と「キャラクターごっこ」が多いことが一致しており、人形遊びの性差が認められる。

これは、調査当時(559年)のキン肉マンブームを反映していると考えられる。

2) おもちゃ以外に遊びに使われる物として生活用品がトップなのは、一番身近な興味を引く物であり、「ごっこ遊び」や「倉作」に使われると考えられる。(注: この研究は、文部省科学研究費によるものである)